



冬の到来、健康管理に気を付けてお過ごしください。

去る10月10日、小金井市の人口が初めて12万人を超えました。市の人口は、戦後の都市化により急増し、市制施行時の昭和33年に約4万人、昭和52年に10万人、平成14年に11万人を超え、平成29年に12万人を超えました。市では、人口12万人達成を記念し、10月10日に出生届を提出されたご家族2組、婚姻届と転入の届け出をされたカップル1組に11月11日に記念証をお渡ししました。

11月1日現在の人口は12万194人、世帯数は5万9千522世帯となっています。平成22年～27年の5年間の人口増加率は多摩26市中3位、平成22年度以降は年平均684人の増加でしたが、平成28年度には千252人の増加となりました。平均寿命も高く、平成22年時点の平均寿命は男性81・8歳、女性87・0歳で、男性は都内2位の高さです。直近の100歳以上の人口は、男性7人、女性55人、計62人、最高齢は108歳の女性です。合計特殊出生率は、平成25年1・29、平成26年1・34、平成27年1・36と上昇し、近年は千人を越える新生児が誕生しています。ま

内や近隣に大学が多いことから若い世代間の人口移動が多く、未就学児（0～5歳）は平成22年度5千106人から平成29年度6千159人となり、7年間で千53人増加しています。

また、シルバー人材センターへの加入率が都内1位（人口10万人以上）というデータからも元気で意欲的な高齢者が多く活躍していることがわかります。現在、市では待機児童解消への強化策、学童保育大規模化への対応に全力を挙げておりますが、同時に18年ぶりとなる新設の特別養護老人ホーム開設に向けた支援や準備も行っています。

昨年発表した市人口ビジョンでは、平成35（2023）年をピークに人口減少し、2060年の推計人口は9万9千800人、高齢化率は34・51%と予測しています。今後の課題は、あらゆる世代に住み続けたいと願われるまちづくりやひとづくり、子育て支援や住民福祉の増進に取り組み、あるもの磨きによって市の魅力を向上させ、生産年齢人口の減少を抑え、子育て世代の一層の定住化を図ることにあります。山積しているさまざまな課題を解決し、小金井市が「選ばれるまち」となるよう、皆様と力を合わせて努力してまいります。

小金井市長

西岡真一郎